

お 知 ら せ

揖斐川町東横山地内地すべりについて（第 5 報）

1 . 場 所 岐阜県揖斐郡揖斐川町大字東横山地内

2 . 現地調査結果の概要

専門家及び国・県合同による現地調査を本日 17:00～18:30 に実施し、その後、対策会議を開催しましたので、その概要についてお知らせします。

2 - 1 現地調査員 独立行政法人 土木研究所 地すべりチーム 上席研究員 藤澤和範
国土交通省 国土技術政策総合研究所 砂防研究室 主任研究官 水野秀明
ほか 9 名（越美山系砂防事務所、岐阜県河川課、砂防課、揖斐土木事務所職員）

2 - 2 対策会議結果

（ 1 ）地すべりの考察

- ・時間当たり 100 ミリ以上の動きが記録され、また末端部の小崩壊もあるため全体の大きな動きとなっている危険な状態である。
- ・地すべり深さは未定。
- ・全体が滑落する可能性もあるものの、動きが止まる可能性もある。
- ・数日のうちに落ちてしまうか、部分的な崩落を伴って停止するかのどちらかが想定される。

（ 2 ）今後の対応

- ・監視を続ける。
- ・地すべりブロックに新たに伸縮計を二基設置する。
- ・斜面下部のコンクリート吹きつけ部の移動量を計測する。
- ・現地に監視員を置き、常時崩壊状況を監視・記録する。
- ・最悪の事態も想定して、国道 303 号の安全な通行確保の体制を整備する。

（ 3 ）天然ダムの考察

- ・河床勾配が 300 分の 1 程度と緩いため、天然ダムの決壊に伴う土石流の発生は考えられない。
- ・土砂が山側に堆積し、湧筋が右岸側にできた場合には徐々に洗掘すると思われ、一気に流出し段波が発生することは考えにくい。
- ・河道を完全に閉塞した場合には、段波の発生も考えられるため、現地での監視が重要である。また、その場合決壊防止のための仮放水路の設置についても検討する。
- ・天然ダムが徐々に浸食される場合には、緊急的に土砂を撤去する必要はなく、安全な時を見計らって撤去することが望まれる。

3 . 配布先 中部地方整備局記者クラブ、岐阜県政記者クラブ

4 . 問い合わせ先

岐 阜 県 県 土 整 備 部 河川課	技術主査	広瀬 隆男
		TEL 058-272-1111（内線3726）
岐 阜 県 県 土 整 備 部 砂防課	課長補佐	棚瀬 秀樹
		TEL 058-272-1111（内線3744）